

今日のみことば

□ 6月4日(日) ヤコブ 5章

主の再臨の時は近づいている。誰も、みなその時のために準備しなければならない。ヤコブは離散したユダヤ人たちが、試練と迫害の中にあっても、よい証しが続けられるようにと祈る

□ 6月5日(月) 一ペテロ 1章

信仰に激しく試みられていた離散したユダヤ人たちの、その結果はすばらしいものであった。生ける主にあって新しく生まれ変わらされ、生きる望みを与えられた。

□ 6月6日(火) 一ペテロ 2章

この世の生活も大切です。私たちの行いは未信者に影響を与えるようなものでなければならない。キリスト者の生活はこの世では非難されるとも、それを正す生活こそすべきです。

□ 6月7日(水) 一ペテロ 3章

キリスト者はいつも迫害に対する心構えをしておかなければならない。いつも責められることないよい良心を持っているなら、非難を受けることがあろうとも恐れることはない。

□ 6月8日(木) 一ペテロ 4章

ペテロがここで、何よりも大切にしなければならないと言っていることは、「互いに熱心に愛し合うこと」だと言う。神からいただいた賜物を、神の栄光を現すために用いることです。

□ 6月9日(金) 一ペテロ 5章

もしも誰かが群れの責任者として立てられるなら、それは実は「大祭司」なるお方が立てられるのです。委ねられた群れを本心から導き、みずから模範となるべきです。

□ 6月10日(土) 二ペテロ 1章

キリスト者は、役に立たない者や実を結ばない者にならないためには、その信仰生活に進歩が必要である。私たちは「私たちの主イエス・キリストを知る」道を、力から力へと進みます

ろば No. 1818

2017年 6月 4日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

使徒言行録 2:37

人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たちわたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。

人々の驚き、とまどいを見て、パウロが事情を説明しました。その中身は「あなた方が十字架につけたこのイエスを、神は、主またキリストとしてお立てになつたのである」と語ったのです。神は、ご自分の民の救いのために立ち上がってくださる信仰に生きてきたユダヤ人にとってイエスは、期待の星でしたが、自分たちの想像し願った救い主と異なっていたことと、祭司長たちの扇動にあつて、イエスを十字架につけることの大なる罪の指摘は、人々にとって大きな衝撃でした。「兄弟たちよ。わたしたちは、どうしたらいいのでしょうか」とペテロたちに言いなした。「すると、ペテロは答えた。『悔い改めなさい。そして、あなた方ひとりひとり

ペンテコステの出来事がいかに驚くべき事であったか。ここからキリストの教会の歩みが始まったのです。キリスト教会の誕生日です。と、私たちは称していますが私は真実だと信じています。

キリストの昇天を見届けた弟子たちは、約束の助け主が送られることを、みんなで心一つにして祈りました。10日目、「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。」(使徒2:2-3)のでした。そこで、弟子たちは外に出て、それぞれが語り始めた。その言葉は、そこに集まっていた色々な国々の母国でした。

が罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさいそうすれば、あなた方は聖霊の賜物を受けるであろう』」(使徒2:27-38)と仰いました。そこで、彼の勧めを受け入れた者たちは、バプテスマを受けたが、その日仲間に加わった者が三千人ほどであった。

そこからキリストの教会がどのように広がっていったか。聖霊はどのように働いてくださったか。「一同はひたすら、使徒たちの教えを守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈りをしていた」とあります。彼らの主キリストの贖いの喜びに生きる姿が、出会う人々の心を動かしてゆきました。

主ご自身もその働きを支援されました。エチオピアの女王の高官が礼拝のためにエルサレムに下っているのを知って、ピリポを遣わして、信仰への手助けをされ(使徒8:29-39)、コルネイオの求めに応じてカイザリヤを訪れたパウロは、そこで主がなさった働きを聞き、しっかりと十字架のイエスを語り伝えました(使徒10:23-48)。また聖霊はマケドニアの人々の叫びを通してパウロを世界伝道への一歩を踏み出させられました(使徒16:10)。ペンテコステの出来事は、私たちに聖霊の働きが目指しているものを告げていることに気づかせられたのでした。聖霊は、福音の世界宣教のため働くのです。ついにはこの私たちにまで、この喜びの福音はもたらされました。そして今も聖霊は私たちに、「行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」と告げているのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
創世記12:1-9 明日の先に見えるもの

今日、私たちは人生に危機に会うとき、どのようにその危機と向きあうのでしょうか。多くの聖書に出てくる信仰の先達たちが生きてきた道んこうのちがしっかりと学ぶべき多くのものを、私たちに教えてくれる。

信仰の父アブラハムは、「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい」と神の言葉に従って、旅立ちました。これがアブラハムの生涯の様々な出来事の始めです。そしてこれは私たちの、意識するとしないとにかかわらず私たちの人生は始めでもあろうかと思っています。

しかしアブラハムを意思を持って、未知の世界への一歩を踏み出したのでした。不安があったであろう事を承知しますが彼は、戸惑うことなく神の言葉に従いました。神が求められたことに対してアブラハムは「はい」と答えるのです。そこに私たちが聞くべき大切なものがあるのです。



Read God's Word.